【実施区域・面積】

千葉県、7.28125ha

【生態系タイプ】

里山林・二次草原・草地・低層湿地・湿地

【実施区域の状況】

千葉県北総地域にある都市に隣接する里山で、印西市の市有地である。谷津構造の景観を有しサイト内には2本の谷津があり、それぞれ、湧水、絞り水を供給する小流域で、全体として流域生態系を形成し、谷津・里山環境に生息する生物の多様性を育んでいる。また台地の草地は、江戸幕府が野生の馬の育成のために設けた印西牧の一部に当たり、現在でも牧の草原性植物を希少在来種として多く観察することができる。

【目標】

里山や牧に生息してきた絶滅を危惧される動植物の保護と、多様な生物の生息環境を保全することが目的。

地域住民の自然とのふれあいや学校教育研究機関の環境学習・研究の場として利用しながら、保全活動の目的も達成することができるような仕組みをつくる。

【主な活動内容】

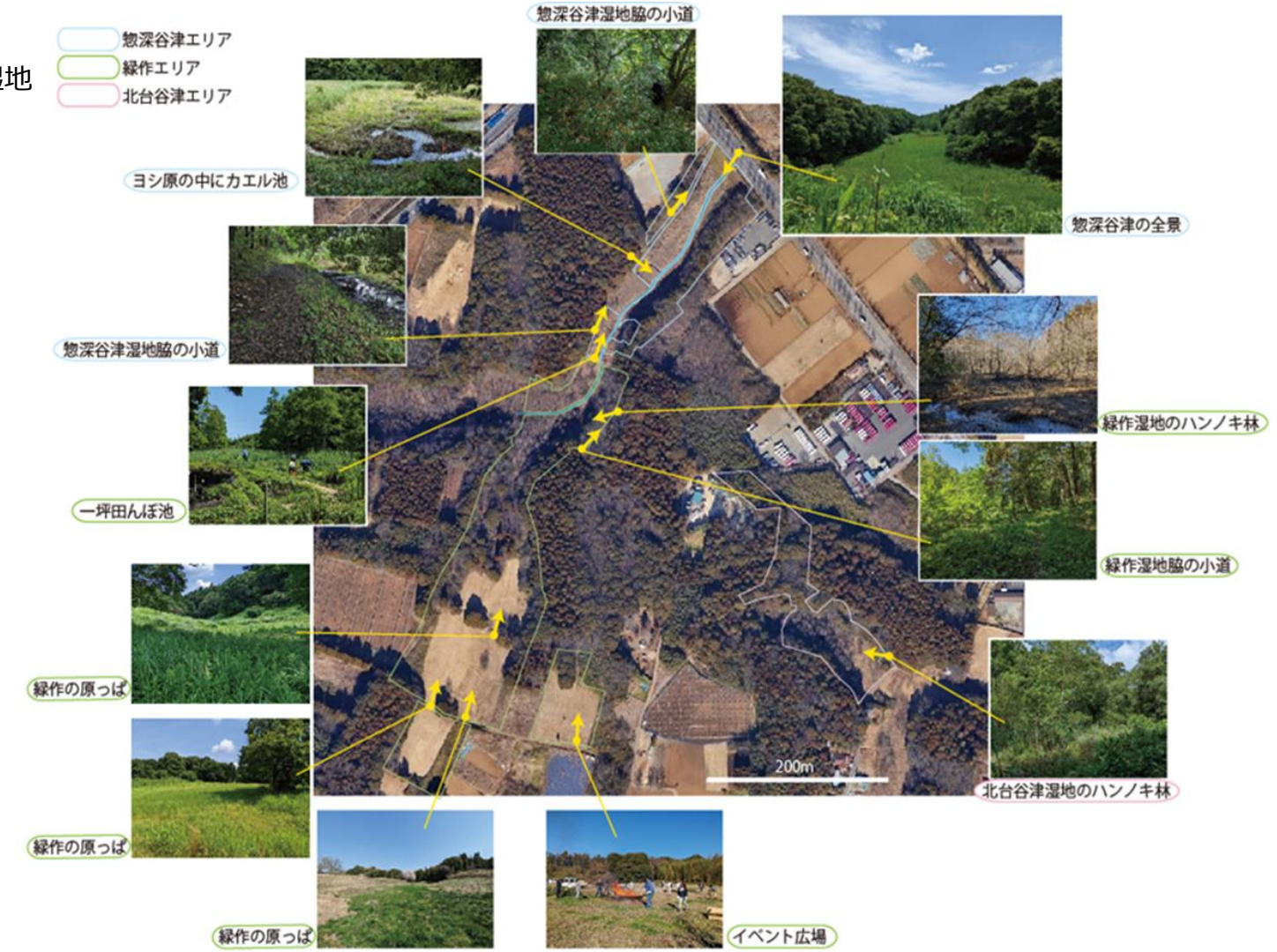
①里山の保全　②里山学校などの環境学習と保全参加企画

【モニタリング計画】

昆虫、植物、鳥類、両生類、魚類のそれぞれ目標種・指標種を決め
決まった時期の生息域や個体数を記録する

【実施体制】

原っぱの会の会員が2名～3名、広域の種については6名～10名ほどで行う



【計画期間】

2025年9月～2030年8月